

第 1 回いわき市震災メモリアル検討会議 議事録

No. 1

会議名	第 1 回いわき市震災メモリアル検討会議		
開催日時	2015.6.2 (火) 15:00~17:00	開催場所	いわき市生涯学習プラザ 会議室 2
参加者	検討委員	石丸委員長、藁谷副委員長、福迫委員、高橋委員、中島委員、渡邊委員、強口委員、林委員、赤津(慎)委員、蛭田委員、芳賀委員、川副オブザーバー	
	事務局	新妻部長、赤津課長、鈴木主査ほかふるさと再生課職員	
	トータルメディア	丹治・中尾・橋本・荒木	
	記入者	荒木	

資料
<ul style="list-style-type: none"> ■ 第1回検討会議次第・委員名簿・会議設置要綱 ■ (資料1) いわき市震災メモリアル検討会議の運営について(案) ■ (資料2) 「いわき市震災メモリアル事業」の概要について ■ (資料3) 会議スケジュール案・視察案(1)(2) ■ (参考資料) 新聞情報・いわき市復興ビジョン・市震災の記録・復興のあゆみ 2014
概要
<ul style="list-style-type: none"> ■ 市長あいさつ ■ 検討委員及び事務局紹介 ■ 協議 <ol style="list-style-type: none"> 1 委員長及び副委員長の選出について ⇒ 委員長に石丸氏、副委員長に藁谷氏が選任された。 2 会議の運営について [資料1] <ul style="list-style-type: none"> ・会議は原則公開。議事録を毎回作成し、市のホームページに掲載する。 ・事務局が議事録(案)を作成。 ・議事録の署名について、毎回2名の委員が担当。議事録の内容確認をした上で確認の署名をする。 ⇒ 2名に電子メールで議事録(案)を送付し、議事録署名をもらい次第会議の内容を市のホームページにて公開する。 ■ 議事 <ol style="list-style-type: none"> 1 事業概要について <ol style="list-style-type: none"> (1) 震災の記憶・記録の継承について [資料2 (P1)] <ul style="list-style-type: none"> ・市復興ビジョン(平成 23 年9月策定)における位置づけは、[取組みの柱2 生活環境の整備、充実]となっており、災害の教訓、記録等を収集整理し正しく後世に継承し、減災教育に生かすこととしている。 ・「追悼・鎮魂」、「危機意識や防災意識の醸成」、「震災の記録の保存と継承」の3つの視点により、事業を展開していく。 ・市内各地区の被災構造物等の保存や拠点施設の整備というハード事業及びそれらに関連するソフト事業の各施策を一体的に展開していく。 (2) これまでの市の取組み経過について [資料2 (P1~2)] <ul style="list-style-type: none"> ・震災の記録、復興あゆみの作成。 ・メモリアル公園の整備検討、モニュメントの整備支援。 ・被災構造物等の現況 <ul style="list-style-type: none"> → ① 久之浜の稲荷神社:久之浜地区において津波被災を免れた建造物。隣接地に防災緑地が建設される予定である。稲荷神社周辺をメモリアルゾーンとして形成する予定。 ② 旧豊間中学校:本年5月から解体に着手しているが、震災当日に卒業生が寄せ書きした黒板、被災備品、遺留品は市において保管している。 ③ 岩間地区防潮堤の一部:NPO 団体がモニュメントとして保存していきたいという意向のもと、防災緑地工事の施工者である県と協議が進められている。

④ 田人地域の断層:市指定文化財登録にむけて、地域振興協議会において教育委員会との協議が進められている。

- ・ 震災語り部の養成、市内各被災地のスタディーツアーを実施。
- ・ いわき明星大学においては、復興事業センター震災アーカイブ室を設置し、震災資料の収集、展示に取り組んでいる。

(3) 検討会議の検討事項について〔資料2 (P3)〕

- ・ 「追悼・鎮魂」、「危機意識や防災意識の醸成」、「震災の記録の保存と継承」に基づいた具体的な手法の検討。
 - ・ 拠点施設の検討と整備の方向性の検討。(新築か既存の施設を利用するか。コンセプトはどのようなものか)
 - ・ ソフト事業の展開方法の検討。(既存資源、各地区の取り組みと連携させながら展開する方法を検討する。)
- 上記三点を踏まえて、最終的には市において震災メモリアル事業の基本構想を策定する。

(4) 国県等の主な動向について〔資料2 (P3)〕

- ・ 閣議決定により、国は岩手、宮城、福島の前被災三県に一か所ずつ国営の復興祈念公園を新たに整備する方針。
→ 福島県では、双葉、浪江の両町にまたがる沿岸部の地域が候補地として選定された。
- ・ 相馬市:伝承記念館として今年4月にオープン
- ・ 富岡町:富岡町震災資料館(仮称)の整備が検討されているとの新聞報道があった。

2 事業のスケジュールについて〔資料2 (P4)〕

- ・ 7月中旬、8月上旬、8月下旬に第2回、第3回、第4回の検討会議を行う。
- ・ 9月下旬の第5回検討会議にて提言案の検討、取りまとめを行う。
- ・ 7月中旬の第2回検討会議にて、久之浜・大久地区、豊間・薄磯地区、小浜・岩間地区、田人地区の復興まちづくり活動を実践している住民を招き、ヒアリングを行う。

3 先進地視察及び視察日程について

- ・ 視察日程については、6月29日(月)からの一週間で日程を調整。現在7月4日、5日が候補日。
- ・ 視察先について、神戸と長岡の2班に分かれて視察を行う。ただし各委員の都合でどちらかに偏った場合は視察先を調整させていただく(委員長決定)。
→ 両方を視察したうえで、いわきに合う展開方法を取り入れていく方向性で。
- ・ 展開方法として現時点で考えられる案は、いわき市の震災記録を集約した機能を持つ拠点施設と、中越大地震の被災地メモリアルのように分散した形のものの二方向性である。

(視察候補地に関する情報)

- ・ 人と防災未来センター
→ 阪神淡路大震災の被災の記録、保存、復興に向けての市民の活動記録の展示、防災教育を行っている。
経営主体は兵庫県。一か所に様々な機能が集約されている。
- ・ 野島断層保存館
→ 阪神淡路大震災時に現れた活断層を保存しており、断層上の民家も展示の中のコースの1つになっている。
経営主体は淡路市。
- ・ 中越大地震の被災地メモリアル
→ 長岡から小千谷一体の地域全体で中越地震を忘れないために、多数のモニュメント設置や施設運営を展開しており、拠点が分散している。施設ごとに経営主体が異なる。

■ 質疑応答

- ・ (議事録のホームページ公開について)議事録署名に毎回委員の中から二名を選出するということだが、どのような形式で承認をとるのか。
→ 議事要旨の公開を円滑に行いたいという観点から、事務局が作成した議事録を毎回選出された委員に電子メールで送り、確認署名をいただいてからホームページで公開する。
- ・ 田人地区の活断層は、市の文化財指定の申請中とのことだが、市の指定文化財には登録されているのか。
→ 現在は、申請主体である田人地域振興協議会の協議段階である。断層の中でも、震災が比較的顕著に表れた場所が民有地であり、市の指定文化財に登録されると、土地の形状を変えることが出来なくなるため、指定に至るの

には所有者の同意を得ることが必要。その土地の所有者がすでに亡くなられていて、土地が相続されていないため、同意が得られない状況となっている。

- (先進地視察について)神戸と長岡の二班に視察班を分けることによって予算はオーバーしないか。
→ 予算に関しては問題ない。
- 二か所行くことは決定事項か。
→ できるだけ多くの展開例を見ておいたほうがいいので、グループ分けして視察を行うのが無難であることから、現時点では二か所を視察する方向で調整。

以上

【署名】

福迫昌之

高橋満
